

教師力向上支援事業派遣研修報告書

- 1 所属・職・氏名 富山県立富山中部高等学校・教諭・岡本 直樹
- 2 研修期間 平成30年9月17日(月)～平成30年9月24日(月) 8日間
- 3 調査研究課題 アメリカ合衆国における、高い学習意欲と学力、豊かな人間性を育む教育力の研究および教師としての資質向上
- 4 研修機関等 (シアトル)
在シアトル日本国総領事館
ビーコンヒル インターナショナル小学校
ジョンスタンフォード インターナショナル小学校
(サンフランシスコ)
サンリアンドロ高校
サンフランシスコ教育委員会
- 5 研修の概要

(1) シアトル

① 在シアトル日本国総領事館

企業の進出拡大が進むシアトルは、国内外から優秀な人材が集まり、雇用競争も高くなっているため、シアトルで生まれ育っても、賃金が低い場合、この街で生活していけないという現実もあることが認識されている。そこで、シアトル市教育委員会は、生徒それぞれに最適なスキルを身に付けようとする将来を見据えた教育方針として、「シアトル・レディ」を掲げている。また、子どもたちが厳しい環境に立ち向かい、今後もこの街で生きていける力を身につけられるため、ワシントン州法では基本的教育目標として、「責任感と礼儀をわきまえた国際人となる機会を与える」「家族や地域の発展に貢献でき、異なる視点を理解し、生産的で満足のいく人生を送れる機会を与える」と規定されている。

シアトルの学校では、英語が基本になっているため、英語以外の外国語教育やイメージ教育も盛んに行われている。日本でも最近取り入れられるようになったコンピュータサイエンスや心を育む教育、奉仕活動等にも力を入れている。

また、日本との違いとしてコミュニケーション能力の高さが上げられる。もともと多様性のある人々が暮らす街であり、その人々個人個人の能力を生かせる人と人との関わりが求められることがコミュニケーション能力が高い理由である。また、リーダーシップについて、人間の自主性の育成を掲げ、自主的に動ける在り方、つまりは行動力をリーダーシップとして位置づけ教育している。そのことがコミュニケーション能力の高さに繋がっていると感じた。

② ビーコンヒルインターナショナル小学校

シアトルの南部に位置する。生徒数は410名で教員は30名程度。学校はオープンコンセプトで、1つの空間で3つの教室が配置されている。人種構成としてはアジア太平洋系、ヒスパニックが35%ずつ、白人が13%、アフリカ系アメリカ人が10%などとなっている。家庭の収入によって学校での食事が無料となったり減額となったりするミールプランの提供(全体の半数以上)が特徴的である。英語が第一言語でない生徒に向けた段階的なバイリンガルプログラム(全体43%の生徒が受講)では、頑張る者が成功する・出る杭をもっと出させる教育の凄さを感じた。特に、英語のリーディングの授業では一斉授業と、個別指導があり、個別指導では細かく発音・読み取りのチェックがなされており、習熟度で進度が異なる対応を取っていた。また、校長先生の講話の中に、この学校に求める教師像として「子どもが努力すれば高い所に行けると信念をもって言える教師」と断言された点に感銘を受けた。

③ ジョンスタンフォードインターナショナル小学校

ウォリングフォードにある小学校である。生徒数は約450名。バイリンガル児童へのサポート体制が充実している学校の1つで、スペイン語と日本語でのイメージプログラムを提供している。授業の半分が英語、もう半分をスペイン語または日本語で行われている。まず、幼稚園の過程の授業を見学させてもらったが、幼稚園の段階からプログラミング教育の初歩版とも言えるような「規則に従って動くおもちゃ」を使って、規則性を見つける教育だった。ここにも出る杭をもっと出させる教育の凄さ

を感じさせられた。また、5年生のクラスでは、日本語を話すことのできる児童達と算数のゲーム（代わる代わるかけ算をしてマス目を埋めていくゲーム）をした。何手も先を読んで大人と張り合うだけの思考力をつける教育がなされており、思考・協働し、正解を導き出す教育がなされている点に、これからの教育のヒントを見いだすことができた。

（2） サンフランシスコ

① サンリアンドロ高校

9年生から12年生までの約2,700名が在籍し、教職員は約120名である。高度マニュファクチャリング（ものづくり）、ICT（情報通信）、デジタルメディア、バイオサイエンス、社会問題研究など、教科書で学ぶ授業に加え、社会に役立つスキルを身に着けるための授業がなされている。サンリアンドロ地区のビジネスや市議会と密接に連携し、地元企業で働く機会を作る高校生向けインターンシッププログラムもあり、体験者の話も聞いてきた。地元のビジネスコミュニティが高校と連携し、次世代の人材づくりに積極的に関与している。授業は（テレビ局のようなセットのスタジオで）テレビ番組を作る授業、映像編集をする授業、3Dプリンタを使ってもものづくりをする授業、大学進学にむけた物理の授業などを見学した。物理の授業は「ある初速を与えたボールをヘルメットに当てたとき、壊れないヘルメットを作る」という探究型の授業であり、これからの本校でも考えていくべき授業がなされていた。

② サンフランシスコ教育委員会 エミリー村瀬氏

サンフランシスコの教育は、教育委員会企画部より、3カ年プラン「2025年にどんな生徒になってほしいか、どんな卒業生になっているのが理想なのか」を考えて企画されている。また、サンフランシスコの公立校の人種の割合は、サンフランシスコの人種の割合と違っており、大部分の白人は私立校に行く。中国系の児童生徒が3人に1人、ラテン系が4人に1人の割合で通学している。また、小学校・中学校・高校は住所で決まるわけではなく、選択制になっている。

（3） 現地の方との交流

メンロー大学キャンパス内では榎本氏の講話を聴講した。シリコンバレーではITが盛んというイメージを覆し、人と人との関わりが大切であり、実際に人に会って話しをすることの大切さを実感させられた。また、メンロー大学内の学食で出会った、日本人留学生とも話をし、「親の会社を継ぐために、何より成功を求めて、出会いを求めてシリコンバレーに来た。」と強い意志を聞かせてもらった。

ダニエル・オキモト氏（スタンフォード大学名誉教授）を表敬訪問した際には、日系アメリカ人がその地位を獲得するまでの、長くて苦しい闘いについて、スライドを用いて聞かせてもらった。

（4） 富山経済同友会の方々との交流

今回、富山経済同友会の方々には講話の際だけではなく、いろいろな場所で交流させていただいた。その際、人と人との関わり合いの大切さ、富山のすばらしさを改めて実感させられた。事前研修の段階から大変すばらしい講話を聞かせてもらった。企業経営側からも「人を育てる」という目的で、教育問題を考えておられ、その人材育成の話しをたくさん聞かせてもらった。我々も「人を育てる」という同じ問題を共有し、富山の教育をよくしていこうと強く思うことができた。

今回の研修では、他校種の先生方との出会いも貴重なものになった。日頃、出会うことのない校種の先生方との意見交換は大変新鮮で、勉強になった。また、中堅教員としての思い、悩みなどを共有することができ、大変心強かった。

今回の研修で得た経験は、日々の授業実践を通して、子供たちに還元していこうと思う。今後は、今回の研修で学んだことを大切に、広い視野から、未来を担う生徒たちの教育に役立てていきたい。